

09

10分で読める
モバイル講演録



Shuntaro Torigoe

mobile
lecture text

がんになって良かった！

鳥越 俊太郎

はじめに

あなたは人の話を聞く機会がありますか？

家族、職場、友人など限られた人間関係の中で生きて、彼らと同じ価値観から抜け出せずにいるのではないのでしょうか。

人の話を聞くことは、あなたの価値観を変えていきます。

価値観を変えることは、あなたの人生を変えていくということです。

同じ毎日の繰り返し、将来への不安、何となくやりきれない倦怠感。

すべてはあなたの「価値観」が生み出しています。

しかし、「人の話を聞く」といわれても、すぐにそれを実行できる人は多くありません。

気軽に講演会に足を運べるようになった昨今でも、「忙しくて講演を聴く時間なんてない」「そもそも自分の住む地域でお目当ての講演がない」という声もよく聞こえます。

そんな忙しいあなたに贈るのが「10分で読めるモバイル講演録」です。

移動時間や待ち時間などのちよつとした時間で、著名人の講演を「読める」ようにポイントを簡潔にまとめました。

また、本講演は加藤登紀子、鳥越俊太郎、渡邊美樹ら著名人1000人以上のインタビュー経験を持つ、プロインタビュアー・早川洋平がナビゲートすることでテレビなどでは聞けない著名人たちの本音を聴くことができます。今回のゲストは、ニュースの職人・鳥越俊太郎さんです。

鳥越俊太郎は、どのように「ニュースの職人」になっていったのか。貸本屋でむさぼるように読んだ講談本から、自身を問いかけ続けた大学時代まで、その傍らにはいつも、「本」の存在がありました。

新聞記者になるまでのお話から、がんと闘い、その闘病生活を客観的に見つめた著書『がん患者』について、また、東日本大震災の原発事故に見る

がんになって良かった！／鳥越俊太郎
(10分で読めるモバイル講演録第9巻)

目次

はじめに

第1章 読書で培われた国語力

第2章 がんと闘いの記録

第3章 マイナスをプラスに変える

第4章 原発事故と報道の現状

第5章 鳥越俊太郎が、これからやりたいこと

報道の現実など、鳥越さんの世の中を見る視点をお届けいたします。好奇心旺盛な鳥越さんならではの、強いパワーを感じていただければ幸いです。

鳥越俊太郎(とりごえしゅんたろう)

ジャーナリスト。1940年3月13日生まれ。福岡県出身。京都大学卒業後、毎日新聞社に入社。大阪本社社会部、東京本社社会部、テヘラン特派員『サンデー毎日』編集長を経て、同社を退職。1989年より活動の場をテレビに移し、キャスターやコメンテーターとして活躍。

山あり谷ありの取材生活を経て辿りついた肩書は「ニュースの職人」。

2005年、大腸がん発覚。その後も肺や肝臓への転移が見つかり、4度の手術を受ける。以来、がん患者やその家族を対象とした講演活動を積極的に行っている。著書に『[がん患者](#)』（講談社）、『[報道は欠陥商品と疑え](#)』（ウエイツ）など。

詳しくは、鳥越俊太郎オフィシャルサイトを

<http://www.shuntorigoe.com/>

第1章 読書で培われた国語力

早川 本日は、ニュースの職人・鳥越俊太郎さんをお迎えして、お話をうかがいます。よろしくお願いします。鳥越さんは、もともと新聞記者志望ではなかったということですが、どうしてでしょうか。

鳥越 記者になるつもりは、全然ありませんでした。大学に7年もいましたので、採用してくれる会社がなかったのです。新聞社は、成績証明書も年齢も関係なく採用してくれるので、受けてみることにしました。何の勉強もしていませんでしたが、採用してもらうことができました。これは、小学校の頃から読書で培った、国語力のおかげです。

小学校の頃、僕が読んでいたのは講談本でした。歴史物が好きで、『[真田十勇士](#)』や『[猿飛佐助](#)』などを読んでいました。中学生の頃は、バルザックの『[谷間のゆり](#)』やディケンズの『[二都物語](#)』など。それから、スタンダールの『[赤と黒](#)』や、ホーソーンの『[緋文字](#)』など、恋愛物も読みました。僕は、人よりも多く読書をしていたため、国語力が身につけていました。そのおかげで、大学も新聞社も、一発で受かりました。

僕は、昔から、努力することが嫌いでした。だから、僕は努力したことがありません。大学にも新聞社にも一発で合格できたのは、読書で培った国語力のおかげです。いろいろな学科の基礎になるのは、国語力なのです。

また、努力しない代わりに、僕には集中力がありません。努力をしている人というのは、自分の力を精一杯出し切ったところで受験を迎えます。本番だけ爆発的な力が出る、ということはありません。そのため、もし、不合格だったときには、とても落ち込むわけです。僕は、全然努力していませんでしたから、不合格だったとしても、「本当は、もう少し頑張ればできるんだよ」と、心の余裕を持ってました。努力しない一発集中型だったため、常に余裕を持って生きてこられたのだと思います。

人間には、いろんなタイプがあります。「努力するのはあまり好きじゃない」という人には、僕のような生き方もあります。その代わりに、ここ一番というところで、集中力を出す必要があります。テレビのカメラが回り始め、「5秒前！ 4・3・2・1、はいスタート！」という瞬間、「バン！」と言わなければなりません。この集中力が必要なのです。

国語力と集中力、この二つが、今の僕につながっていると思います。

サンプル版はここまでです。続きは、アマゾンにてダウンロードしてお楽しみ下さい。

「がんになって良かった！／鳥越俊太郎（10分で読めるモバイル講演録第9巻）」

http://j.mp/10mobile_torigoe_09

インタビュー・プロフィール

早川洋平／はやかわ・ようへい
横浜生まれ。

中国新聞記者等を経てプロインタビュアーに。2008年には、インタビュー形式のインターネットラジオ（ポッドキャスト）番組「キクマガ」をスタート。加藤登紀子、鳥越俊太郎、渡邊美樹、茂木健一郎、石田衣良ら、130人以上のゲストが出演、年間150万ダウンロードを超える番組となっている。10～11年、横浜美術館「ラジオ美術館」、13年ユニクロCM「ステテコ&リラコ 風と暮らす篇」インタビュアー。
企業・機関・個人のメディアを創出するプロデューサーとしても活動。中核となるポッドキャスト配信サービスは、美術館、大学、病院、出版社、ラジオ局、ジャーナリスト、作家など、広く活用されている。「横浜美術館『ラジオ美術館』」「多摩大チャンネル」「鳥越俊太郎のニュースの職人チャンネル」「本田健の人生相談」「伊藤忠商事『THE 商社マン』」などプロデュース番組多数。

発行日 2014年02月28日第1版

著者 鳥越 俊太郎

発行者 早川 洋平

執筆協力 金井 由里

制作 Textrage 編集部

〒244-0804

横浜市戸塚区前田町 516-1-B-110

MAIL tr-inquiry@kiqtas.jp

URL <http://kiqtas.jp/>

Copyright (C) 2013 KIQTAS All Rights Reserved.

本作品の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などすることは、固くお断りいたします。